

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々(1階・2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	令和7年10月17日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600486-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」を理念に掲げ、利用者、家族、職員等関係者とのつながりを大切にしたい心温かいホームを目指しています。百々では「出来ること」に目を向け生活の中でリハビリに取り組んでいます。毎日のレクリエーションや2か月ごとの外出支援も行っており、生活の中での楽しみ事にも取り組んでいます。また入居してから長い方も多く最期を住み慣れた百々で迎えたいと希望される方も多いためです。医療、家族、職員と連携を取りながら心を込めて一杯一杯ケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の同業施設と合同で、運営推進会議や法人のエリア会議を行い、地域の特性を捉えた事業所運営に取り組んでいる。管理者は、利用者の生活環境や設備、運営について、職員の意見やアイデアを取り入れ、改善につなげている。また、日常的にミニ学習会を行ったり、研修会を実施するなど、職員のケアの質や意識の向上に取り組み、モチベーションを高めている。日々の暮らしを写真に収めた「百々便り」と1日1行にまとめた利用者の様子と言葉「暮らしの日記」を毎月、家族に送り、家族との信頼関係を深めている。利用者がこころ安らぐ毎日を過ごせるよう、日々のケアや看取り期など、常に寄り添う支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示し常に意識出来るようにしている。また、毎月フロア毎の目標を立てて申し送り時に読み上げ共有することで、業務開始に再確認し心温かい支援を目指し取り組んでいる	理念をスタッフルームに掲示し、事業所全体の目標も掲げている。また、フロア毎や各職員の月間目標を立て、申し送りの際に唱和している。職員は、常に理念について意識しながら、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンの曜日が変更になり毎月の参加が難しくなってきたが、平日のサロンや秋祭り、防災訓練など地域での活動にできるだけ参加し近隣の方との交流の場を設けている	自治会に加入し、秋祭りやクリスマス会などの行事に参加し地域交流を図っている。日曜日の地域活動参加は難しい為、自治会と相談し、職員が活動日の前に側溝清掃等を行っている。地域住民が、新聞紙やペットボトルの蓋など作品作り用の材料を届けてくれている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や入居状況、事故報告と対策以外に感染対策やBCPの取り組み状況を報告、助言を頂いている。年2回は岐南町合同で会議を開催し、情報交換を行いながら地域の特性を生かした協力体制作りが出来ている	保険年金課、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員等の参加を得て、運営推進会議を開催している。また、町内のグループホーム、特養、デイサービス等で地域合同運営推進会議を年2回開催し、情報交換をしながら、地域の特性を活かしたサービス提供に取り組んでいる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入居状況の報告や生活保護の方の月初めの手続きを代行申請。可能な限り対面での報告や相談に努め、協力関係を築いている	町の担当者や地域包括支援センターとは、運営推進会議の際や役場の窓口等で対面による情報交換を行い、助言・指導を得ている。生活保護受給者についての報告や手続き等で、毎月役場に出かけており、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し勉強会や事例検討など身体的心理的拘束のない自由な行動、空間、生活を心がけている。また、会議内容は職員に共有し、外部研修にも参加している	3か月毎に、同法人9事業所合同で身体拘束廃止委員会を開催し、現状分析と検討、勉強会を行っている。委員会で検討された内容を、職員会議で話し合い、研修や学習会を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全第一とし、玄関の施錠は行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年も虐待不適切ケアについての振り返りアンケートを実施、日頃のケアを振り返る機会を作った。また1階は日中にプチ勉強会を開始し、言葉遣いや認知症の理解など学びの場を増やす試みをしている。アンガーマネジメント研修にも参加	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と同時間開催し検討及び意見交換、勉強会を行っている。また、虐待・不適切ケアについて、振り返りアンケートを実施、各自のケアを振り返り、勤務時間内にミニ学習会も実施するなど、虐待防止に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間内部研修に入れて学ぶ機会を設けている。現利用者の皆様で活用されている方はみえない		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず来所して頂きありのままのホームを見て頂いている。ご本人も出来るだけ来て頂き難しい時は事前に面談を行っている。ホームの説明以外にご本人、ご家族の質問に細かくお答えし納得の上で契約を行っている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日々の関わりの中で把握に努めている。脱衣所におけるプライバシーの意見を頂き、スクリーンカーテンを設置。安心してプライバシーが守られる環境作りに努めた。家族から写真をUSB希望にも毎月個別対応を行っている	「百々便り」には利用者の暮らしぶりが分かる写真を掲載し、1日1行の「暮らしの日記」には、利用者の様子と言葉をまとめ、毎月、家族に送っている。また、LINEを活用して情報を伝え、意見を聴きながら運営に反映させている。面会時間は家族の都合も聞き、できる限り応えられるよう配慮している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を言いやすい環境作りに努め、出された意見を検討し職場改善に前向きに取り組んでいる。また、随時社内面談も実施し意見を言える機会を設けている	利用者の安心・安全・安楽を考え、シャワーミスト、リクライニングチェア、スライディングボードの導入、また、物干し台座を吊り下げタイプに変更する等、職員の意見やアイデアを取り入れながら改善に繋げ、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則をいつでも閲覧できるようにしている。希望休の受け入れや勤務中に交代で休憩を確保したり、家庭の状況に応じた勤務体制、有給休暇の推奨や長期休暇の際には皆でサポートし合い働きやすい職場作りに取り組んでいる。	法人代表や管理者が職員面談を行っている。就業状況や能力などを把握し、研修受講を支援している。家庭の事情にも配慮し、希望休や長期休暇の取得など、働きやすい職場環境作りや就業条件整備に努めている。休憩室や休憩時間も適切に確保できている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて実施している内部研修以外に虐待身体拘束研修、アンガーマネジメント研修など外部研修への参加も実施。また、車いす乗車を体験しながら、安楽な体位や皮膚のずれ防止や介助方法など基礎的なことの研修も行っている	管理者は、年間研修計画を立て、状況に応じた課題も組み入れながら様々な研修を実施している。資格取得を奨励し、研修費用の支援も行っている。外部研修やミニ学習会も実施しており、ケアの質の向上と職員個々のモチベーションアップにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列事業所と3か月ごとの合同会議にて意見交換や共有の場、相談の場となっている。また同町内の同業者とは年2回の合同運営推進会議の他、地域連携に参加し情報交換するなどネットワーク作りに努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、盛り付け、台拭き、洗濯など一人一人の出来ることに目を向けて活躍できる場を考え取り組んでいる。また、必ずお礼を伝え、役に立てたと次の意欲に繋がるように意識している		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの方で利用者の思いを表しやすい関係作りに努めている。意思表示が困難な方にも声掛けを多くし、発語や表情、頷きなどから思いを汲み取ったり、職員の気づきなど情報共有し支援に繋げている	職員は、ゆとりを持って対応できる個別支援を重視し、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者でも、表情やしぐさ、頷き、わずかな発語等を糸口とし、知り得た情報を職員間で共有しながら、希望を叶えられるよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で介護計画の振り返りを行っている。本人、ご家族の意向も汲み入れ、変更時には変更部分も説明をしている。また、状態に変化があった時には臨時で話し合い、対策を立てて数日間の実施と評価後、計画の見直しに繋げている	面会時や電話等で家族の意向を聞き、職員や医師の意見を踏まえ、介護計画検討会議を行っている。職員は、全利用者の介護計画を念頭にケアを行っており、モニタリングで支援の達成状況を振り返り、介護計画の見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテと紙の記録の両方を併用。毎日の申し送り以外に連絡ノートも活用し情報共有を行っている。介護記録や支援経過は個別のファイルに保管、急変時にもすぐに持ち出せるようにしている	介護計画に沿って、個別記録や業務記録、申し送り内容を電子カルテに入力している。職員は必ず目を通して業務についている。排泄記録と体温表は紙様式、タブレットを併用している。夜勤者の申し送り特記事項は連絡ノートに記入、引継ぎ情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら外出や外泊以外に往診への切り替えや病院変更、提携医以外の送迎のサポートなど出来るだけ柔軟に対応している	現在、町内の他事業所合同で開催している運営推進会議や法人のエリア会議等、地域のネットワークを活かした運営に取り組んでいる。受診支援、訪問理容やマッサージ等、利用者と家族のニーズに応じて、柔軟に支援している。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月ごとに近隣へ外出に出かけたり、涼しくなってからはお散歩を行い、ホーム内に留まらない楽しみある生活の支援に努めている。毎月の地域のサロンは平日の際には参加し、地域の方と交流の場を設けている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に説明し自由に決めて頂いている。提携医の受診は職員が対応し、提携医以外はご家族で対応をお願いしている。状態に応じて往診への切り替えや身障の申請も行っている	入居時に、かかりつけ医について説明し家族が選択している。月2回協力医の訪問があり、看護師資格を持つ管理者が連携しながら支援体制を整えている。障がい者手帳交付申請の際には、手続き等のサポートを行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には早急にサマリーを作成し施設での様子が分かるように情報提供を行っている。退院時カンファレンスには必ず参加し、退院後安心して施設の生活を送れるよう、事前に職員との話し合いも行い、こちらの受け入れ体制を整えている	入退院の手続きは、看護師とケアマネジャーの資格を持つ管理者が担当し、医療機関や家族と連携している。退院時カンファレンスに参加し、利用者の状態を確認しながら、安心してホームでの生活に戻れるよう、受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた話し合いは段階的に行い、主治医との面談調整も実施。施設で出来ること、出来ないことを説明し、同意を得ている。看取りの勉強会にて起こりうる変化や観察ポイントを学び、細かく状態把握に努め、また看取り後の振り返りも実施している	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者・家族に説明し同意を得ている。看取り期は家族と話し合い、意向を再確認している。研修や学習会で学びを重ね、管理者は、看取り後の振り返りと職員の心のケアを行いながら、より良い支援の実践に向けて取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による心肺蘇生法研修を実施、急変に備えて学ぶ機会を定期的に設けている。事故や怪我はすぐに看護師に連絡が取れる体制が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るように努めている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、繰り返し行うことで災害時の対応を再確認している。また、BCP訓練では食事編、排泄編、夜間編など場面ごとに日を変えて実施している。災害をイメージすることで、積極的な意見交換にもなり改善に繋がっている	年2回消防署の協力の下、地震・水害訓練を実施している。新たな課題を検討し見直しも図っている。利用者の状態を踏まえながら、備蓄品の確保・更新を定期的実施している。地域住民や家族には、各種災害応じた協力依頼をしている。	各種災害の時期や時間帯等に応じた、地域住民の具体的協力内容をBCP計画に示した上で、避難訓練と協力体制作りを期待したい。また、利用者の非常持ち出し袋の準備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時には利用者一人一人に挨拶をしてから業務に入っている。内部研修での学びを意識して言葉遣いやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。入浴時に利用者の発した言葉からプライバシーについて再度話し合い、浴室にロールカーテンを設置	研修や学習会を重ね、適切な利用者への声かけや言葉遣い、排泄や入浴介助時には、羞恥心に配慮した対応を心掛けている。入浴時は同性介助を基本に支援している。利用者の希望と職員の意見を反映し、脱衣所にロールカーテンを設置している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がその日の気分や体調によって休息や入浴と自己決定することを尊重している。入浴拒否が続く方には声掛けの工夫をして気分転換を試みている。意思表示が難しい方にも聞き方を工夫して選択しやすくしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアー、居室は過ごしたいようにして頂きながらも、利用者同士で会話が楽しめるように相性を見ながらの席の配置にしたり、活動を通して交流の場となっている。また家族の面会も自由なので、居室で気兼ねなく過ごされている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が3食調理を実施、皮むきやテーブル拭き、お盆拭きなどの片付けを利用者も参加出来るようにしている。また、2か月ごとの外食やお取り寄せメニューも実施し、食べる楽しみがもてるようにしている	食材の買い出しは管理者が行い、3食共職員が手作りしている。利用者の状態に合わせた形態で提供し、ペースに合わせた支援をしながら、職員も一緒に食している。利用者の好みや希望メニュー、畑で収穫した野菜などを活用しながら、食事を楽しめるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量は毎食記入し少なめの方には気にかけて補食などで対応している。また、一人ひとりの状態に応じてお粥や刻み、ペースト食やトロミの使用や持ちやすいお椀やコップへの変更など食べやすい工夫をしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を継続、治療以外にもケア方法に対する相談、アドバイスを受け日々の口腔ケアに活かしている。また義歯の不具合にも早期に対応している。ケアや治療の報告は歯科の先生から直接家族へ連絡している	訪問歯科医や歯科衛生士の助言・指導を得て、毎食後、利用者の状態に応じた方法で口腔ケアを行っている。歯科医師が、利用者や家族に口腔内の状態と治療や口腔管理について説明し、家族が決めている。治療後は、医師が家族に報告している	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切にしている。利用者の状態によっては二人介助で対応もある。また、肌の状態や蒸れやすい方、尿量など定期的に見直しを行い、今の状態にあったパット類を選択している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に籠をお渡しし一緒に着替えを準備。気持ち良く入浴して頂くために浴室、脱衣所の温度管理をしている。介護が重い方はミストタイプのシャワーチェアと足浴を実施、看取りの方にも負担のない範囲で出来るだけ入浴支援を実施している		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や昨晚の睡眠状況に応じて本人の気持ちを汲み取りながら休息を設けている。同じ体勢にならないよう、ソファを活用している。午睡も自由ですが、1時間～2時間ほど休まれる方が多い		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から配達された薬を主に管理者がセットし、変更点や服用に関する事は直接薬剤師とメールでやりとりしている。毎食の服用介助時には本人の前で名前、日付、時間を口に出して確認することを徹底し誤薬対策に取り組んでいる	届いた薬剤は管理者がセットし、服薬支援時は職員がダブルチェックし配薬している。薬袋は日付・名前・時間帯の色分けで分かりやすくしている。服薬完了後には、薬が残っていないか再確認し、誤薬や飲み忘れ等の防止に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、好きなこと、やりたいことを考え活動しやすいような環境作りに取り組んでいる。ソファで座って出来る洗濯干しや自席での盛り付け作業、台所での共同作業など活躍の場を工夫して取り組んでいる	食事準備の際に、利用者が出来る事に関わられるよう声かけしたり、洗濯物干しや掃除なども、役割りとして出来るようサポートしながら、自信に繋げている。季節行事や、夏祭りの総菜パンバイキングなど、利用者が楽しめるよう工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出対応は難しいが散歩や外食、芋ほりなど季節に応じた支援を行っている。また家族との面会や外出、外泊は自由で入居後も利用者と家族の時間を大切にしている	利用者の健康状態や天候を見ながら、近隣を散歩している。また、デッキでのお茶会、レクリエーション、玄関の花の世話など、日常的に外気に触れられるよう工夫している。月間・年間行事を計画し外出支援を行っている。利用者の希望を聞きながら外食に出かけることもある。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持ち込んで見える方はおらず、欲しいものはその都度家族へ伝えている。また、家族の面会も多く希望を伝えている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話をかけたリ、家族からの電話もいつでも対応している。携帯を持っている方もみえ、家族とのつながりを大切にしている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすが通りやすいテーブルの配置にしたリ、玄関にもソファを設置し玄関でも談話できるようにしている。また、皆さんの作品は季節を感じられるものを工夫している	共用空間は広くて明るい。利用者が自然にリビングに集まっておしゃべりを楽しめる雰囲気があり、音楽を聴く・歌うなど、様々な活動も楽しんでいる。季節毎に利用者の作品を飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。居室前には、手作りネームプレートが掛けられている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や関係性、相性を見ながら席の配置を検討しており、定期的に席替えをしている。ソファもあり、自由に好きな場所で過ごせるようにしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットとベッドが備え付けてあり、使い慣れたお布団、家具、衣類などは持ち込んで頂いている。時計をかけたリ絵や写真を飾ったり、小さな椅子やテーブルを入れる方も見え、一人ひとり個性ある居室となっている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用の方は目に入る使いやすい位置に設置することを統一している。生活の中で歩行する機会をリハビリに入れ安全だけを優先しない出来ることに目を向けた生活に努めている		

自己評価および外部評価結果(2階)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示し常に意識出来るようにしている。また、毎月フロア毎の目標を立て申し送り時に読み上げ共有することで、業務開始に再確認し心温かい支援を目指し取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンの曜日が変更になり毎月の参加が難しくなってきたが、平日のサロンや秋祭り、防災訓練など地域での活動にできるだけ参加し近隣の方との交流の場を設けている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や入居状況、事故報告と対策以外に感染対策やBCPの取り組み状況を報告、助言を頂いている。年2回は岐南町合同で会議を開催し、情報交換を行いながら地域の特性を生かした協力体制作りが出来ている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入居状況の報告や生活保護の方の月初めの手続きを代行申請。可能な限り対面での報告や相談に努め、協力関係を築いている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し勉強会や事例検討など身体的心理的拘束のない自由な行動、空間、生活を心がけている。また、会議内容は職員に共有し、外部研修にも参加している		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年も虐待不適切ケアについての振り返りアンケートを実施、日頃のケアを振り返る機会を作った。また1階は日中にプチ勉強会を開始し、言葉遣いや認知症の理解など学びの場を増やす試みをしている。アンガーマネジメント研修にも参加		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間内部研修に入れて学ぶ機会を設けている。現利用者の皆様で活用されている方はみえない		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず来所して頂きありのままのホームを見て頂いている。ご本人も出来るだけ来て頂き難しい時は事前に面談を行っている。ホームの説明以外にご本人、ご家族の質問に細かくお答えし納得の上で契約を行っている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日々の関わりの中で把握に努めている。脱衣所におけるプライバシーの意見を頂き、スクリーンカーテンを設置。安心してプライバシーが守られる環境作りに努めた。家族から写真をUSB希望にも毎月個別対応を行っている		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を言いやすい環境作りに努め、出された意見を検討し職場改善に前向きに取り組んでいる。また、随時社内面談も実施し意見を言える機会を設けている		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則をいつでも閲覧できるようにしている。希望休の受け入れや勤務中に交代で休憩を確保したり、家庭の状況に応じた勤務体制、有給休暇の推奨や長期休暇の際には皆でサポートし合い働きやすい職場作りに取り組んでいる。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて実施している内部研修以外に虐待身体拘束研修、アンガーマネジメント研修など外部研修への参加も実施。また、車いす乗車を体験しながら、安楽な体位や皮膚のずれ防止や介助方法など基礎的なことの研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列事業所と3か月ごとの合同会議にて意見交換や共有の場、相談の場となっている。また同町内の同業者とは年2回の合同運営推進会議の他、地域連携に参加し情報交換するなどネットワーク作りに努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、盛り付け、台拭き、洗濯など一人一人の出来ることに目を向けて活躍できる場を考え取り組んでいる。また、必ずお礼を伝え、役に立てたと次の意欲に繋がるように意識している		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの方で利用者の思いを表しやすい関係作りに努めている。意思表示が困難な方にも声掛けを多くし、発語や表情、頷きなどから思いを汲み取ったり、職員の気づきなど情報共有し支援に繋げている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で介護計画の振り返りを行っている。本人、ご家族の意向も汲み入れ、変更時には変更部分も説明をしている。また、状態に変化があった時には臨時で話し合い、対策を立てて数日間の実施と評価後、計画の見直しに繋げている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテと紙の記録の両方を併用。毎日の申し送り以外に連絡ノートも活用し情報共有を行っている。介護記録や支援経過は個別のファイルに保管、急変時にもすぐに持ち出せるようにしている		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら外出や外泊以外に往診への切り替えや病院変更、提携医以外の送迎のサポートや身内のよる居室での散髪や訪問マッサージなど出来るだけ柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月ごとに近隣へ外出に出かけたり、涼しくなってきたらお散歩を行い、ホーム内に留まらない楽しみある生活の支援に努めている。毎月の地域のサロンは平日の際には参加し、地域の方と交流の場を設けている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に説明し自由に決めて頂いている。提携医の受診は職員が対応し、提携医以外のご家族で対応をお願いしている。状態に応じて往診への切り替えや身障の申請も行っている		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には早急にサマリーを作成し施設での様子が分かるように情報提供を行っている。退院時カンファレンスには必ず参加し、退院後安心して施設の生活が送れるよう、事前に職員との話し合いも行い、こちらの受け入れ体制を整えている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた話し合いは段階的に行い、主治医との面談調整も実施。施設で出来ること、出来ないことを説明し、同意を得ている。看取りの勉強会にて起こりうる変化や観察ポイントを学び、細かく状態把握に努め、また看取り後の振り返りも実施している		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による心肺蘇生法研修を実施、急変に備えて学ぶ機会を定期的に設けている。事故や怪我はすぐに看護師に連絡が取れる体制が整っており、指示を受けながら落ち着いて対応出来るように努めている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、繰り返し行うことで災害時の対応を再確認している。また、BCP訓練では食事編、排泄編、夜間編など場面ごとに日を変えて実施している。災害をイメージすることで、積極的な意見交換にもなり改善に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時には利用者一人一人に挨拶をしてから業務に入っている。内部研修での学びを意識して言葉遣いやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。入浴時に利用者の発した言葉からプライバシーについて再度話し合い、浴室にロールカーテンを設置		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がその日の気分や体調によって休息や入浴と自己決定することを尊重している。入浴拒否が続く方には声掛けの工夫をして気分転換を試みている。意思表示が難しい方にも聞き方を工夫して選択しやすくしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアー、居室は過ごしたいようにして頂きながらも、利用者同士で会話が楽しめるように相性を見ながらの席の配置にしたり、活動を通して交流の場となっている。また家族の面会も自由なので、居室で気兼ねなく過ごされている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が3食調理を実施、皮むきやテーブル拭き、お盆拭きなどの片付けを利用者も参加出来るようにしている。また、2か月ごとの外食やお取り寄せメニューも実施し、食べる楽しみがもてるようにしている		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量は毎食記入し少なめの方には気にかけて補食などで対応している。また、一人ひとりの状態に応じてお粥や刻み、ペースト食やトロミの使用や持ちやすいお椀やコップへの変更など食べやすい工夫をしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を継続、治療以外にもケア方法に対する相談、アドバイスを受け日々の口腔ケアに活かしている。また義歯の不具合にも早期に対応している。ケアや治療の報告は歯科の先生から直接家族へ連絡している		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切にしている。利用者の状態によっては二人介助で対応もある。また、肌の状態や蒸れやすい方、尿量など定期的に見直しを行い、今の状態にあったパット類を選択している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を基本に籠をお渡しし一緒に着替えを準備。気持ち良く入浴して頂くために浴室、脱衣所の温度管理をしている。介護が重い方はミストタイプのシャワーチェアと足浴を実施、看取りの方にも負担のない範囲で出来るだけ入浴支援を実施している		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や昨夜の睡眠状況に応じて本人の気持ちを汲み取りながら休息を設けている。同じ体勢にならないよう、ソファを活用している。午睡も自由ですが、1時間～2時間ほど休まれる方が多い		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から配達された薬を主に管理者がセットし、変更点や服用に関する事は直接薬剤師とメールでやりとりしている。毎食の服用介助時には本人の前で名前、日付、時間を口に出して確認することを徹底し誤薬対策に取り組んでいる		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、好きなこと、やりたいことを考え活動しやすいような環境作りに取り組んでいる。ソファで座って出来る洗濯干しや自席での盛り付け作業、台所での共同作業など活躍の場を工夫して取り組んでいる		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出対応は難しいが散歩や外食、芋ほりなど季節に応じた支援を行っている。家族との面会や外出、外泊は自由で入居後も利用者と家族の時間を大切にしている。毎週馴染みの教会への外出も家族、教会、タクシー会社と協力のもと実施		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持ち込んで見える方はおらず、欲しいものはその都度家族へ伝えている。また、家族の面会も多く希望を伝えている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話をかけたリ、家族からの電話もいつでも対応している。携帯を持っている方もみえ、家族とのつながりを大切にしている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすが通りやすいテーブルの配置にしたり、玄関にもソファを設置し玄関でも談話できるようにしている。また、皆さんの作品は季節を感じられるものを工夫している		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や関係性、相性を見ながら席の配置を検討しており、定期的に席替えをしている。ソファもあり、自由に好きな場所で過ごせるようにしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットとベッドが備え付けてあり、使い慣れたお布団、家具、衣類などは持ち込んで頂いている。時計をかけたリ絵や写真を飾ったり、小さな椅子やテーブルを入れる方も見え、一人ひとり個性ある居室となっている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用の方は目に入る使いやすい位置に設置することを統一している。生活の中で歩行する機会をリハビリに入れ安全だけを優先しない出来ることに目を向けた生活に努めている		